

ナンキンハゼの本格的な駆除は、「1. 調査・計画」と「2. 駆除」の二段階で行う。

1. 調査・計画

(1) 調査

①侵入状況の確認

・過年度調査で把握したギャップ(64箇所)を踏査し、ナンキンハゼの侵入状況を調査する。

②侵入箇所の追加確認

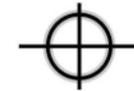
・来年度以降に実施を想定しているレーザ測量を応用し、ギャップの最新情報を確認の上、ナンキンハゼの侵入状況について追加調査する。
 ・管理者が実施している維持管理に係る巡視や、実証実験地までの移動の際、管理者以外の者が実施する学術調査等で、ナンキンハゼの侵入が確認された場合は侵入箇所に追加する。

(2) 計画

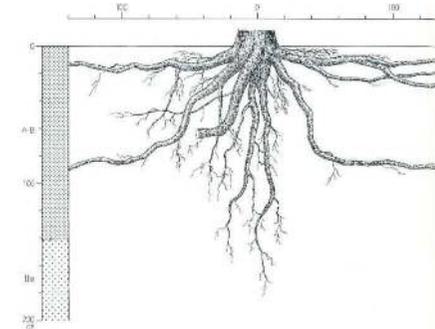
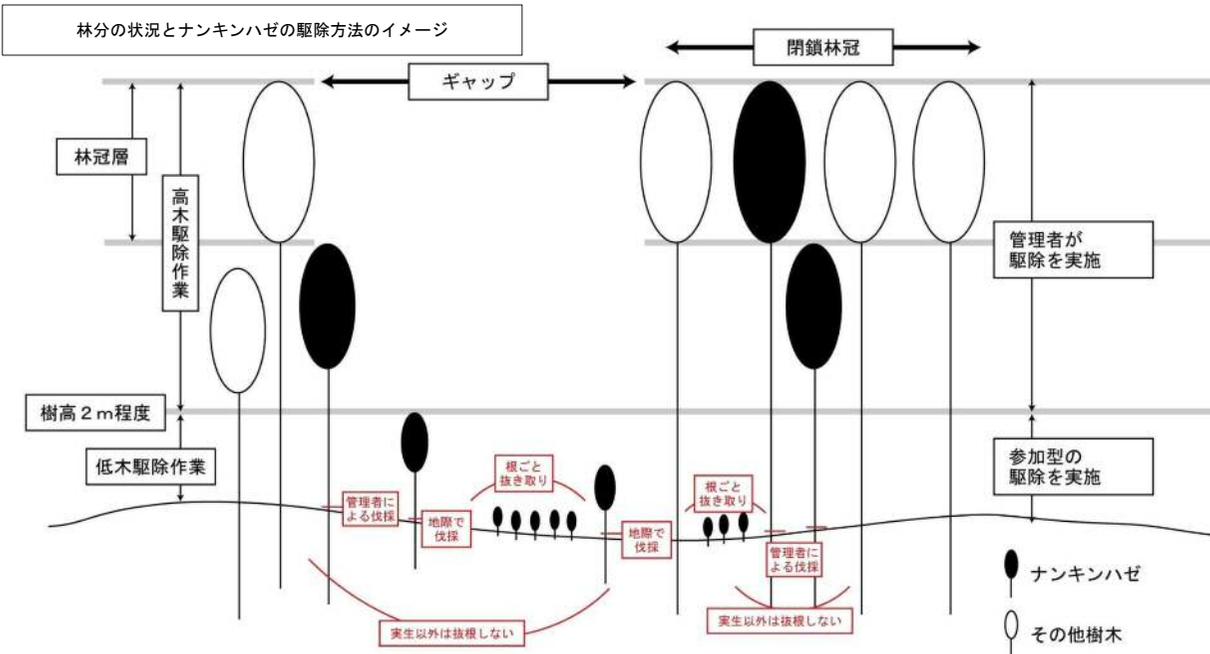
・照葉樹林と侵入箇所の関係、侵入箇所での生育状況(群落の形成、繁殖開始年齢等)、駆除作業の難易度等を踏まえ、**戦略的な駆除の進め方を検討**する。
 ・萌芽処理や更なる侵入防止等、**駆除後の作業を検討**する。

2. 駆除

作業内容		具体的な駆除方法(案)	
駆除の着手	高木の駆除 (樹高2m以上)	実施体制	・管理者
		作業内容	・周辺樹木への支障が無いよう注意し、地際で伐採する。 ・土壌のめくり上げ等による周辺植生への支障が無いよう、抜根は行わない。
	低木及び実生の駆除 (樹高2m未満)	実施体制	活動団体等の参画を得ながら実施
		作業内容	低木：・周辺樹木への支障が無いよう注意し、地際で伐採する。 ・土壌のめくり上げ等による周辺植生への支障が無いよう、抜根は行わない。 ※伐採が困難な場合は、位置等を記録し、高木の駆除作業に引き継ぐ。 実生：・周辺樹木への支障が無いよう注意し、根ごと引き抜く。
	萌芽防止処置	・切株に、十字の切れ目を入れ、形成層を削るなどの処置を行い、萌芽更新を防止するとともに、根の腐食を促す。 ・自然素材(生理食塩水等)による萌芽防止剤を塗布するなど、適切な萌芽処置方法を検討する。	
	駆除した個体の処理	・駆除した個体は、枝を払い、1m程度に玉切りした後、一定の場所にまとめて置いておく。(自然腐敗) ・原始林外への持ち出しはしない。	
継続的な駆除の実施		・駆除箇所を定期的に巡視し、萌芽の伐採等を行う。 ・新たな侵入や更新が確認された場合は、適宜、実生の抜き取りを行う。	



切株に、左図のように十字に切れ目を入れるとともに、形成層を削ることで腐りやすくし、萌芽を防ぐ



ナンキンハゼの根系の特徴

区分	特徴
形態	大径の垂直根 水平根型
垂直分布	浅根型
水平分布	中間型
分岐	疎放型
細根の多さ	疎性型
細根の太さ	肥厚型
根毛の多さ	中間型

出典：荻住昇「新装版 樹木根系図説」

882頁及び883頁から抜粋

<懸案事項>

■調査・計画	・侵入箇所の継続的な調査方法 ・優先的に駆除を行う箇所の考え方
■駆除	・萌芽防止の適切な処置方法
■体制	・参加型の体制づくり、役割分担 ・原始林内での作業にあたってのルールづくり
■その他	・普及啓発、広報戦略